

令和5年度 大豆情報 第3号

宮城県亘理農業改良普及センター

令和5年8月17日発行

電話 0223(34)1141 FAX 0223(34)1143

ホームページ <https://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

1 生育概況

生育調査結果（調査日：8月10日）

品種	調査地点		播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
ミヤギシロメ	名取市	本年	6月18日	68.3	14.0	4.0
		平年比・差	0	73%	91%	75%
	岩沼市	本年	6月18日	64.4	14.6	4.5
		平年比・差	+2	97%	108%	131%
	山元町	本年	6月7日	79.1	15.2	4.1
		平年比・差	+8	81%	100%	74%

※平年比は、過去2か年（令和3～4年）の平均値。

8月10日現在で開花盛期となっており、開花期はやや早くなっています。主茎長は、平年よりやや短く、主茎節数は概ね平年並みです。

2 今後の管理

病害虫防除

紫斑病

<発生予察情報 8/7 宮城県病害虫防除所>

・発生量は“平年並”。

前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったこと、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されていることから推測される。

◆開花期20～40日（8月下旬～9月上旬）後の間に1～2回防除。

ミヤギシロメの場合、紫斑病抵抗性が強いので、防除回数を削減することができます（図1参照）。

・刈り取り時期が遅れると、発生が助長されるため、適期刈り取りに努めましょう（図2参照）。

・耐性菌出現を防止するため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。

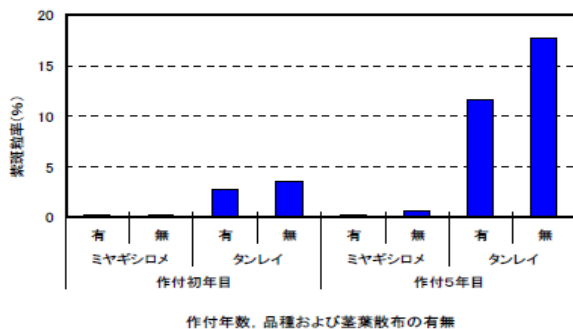
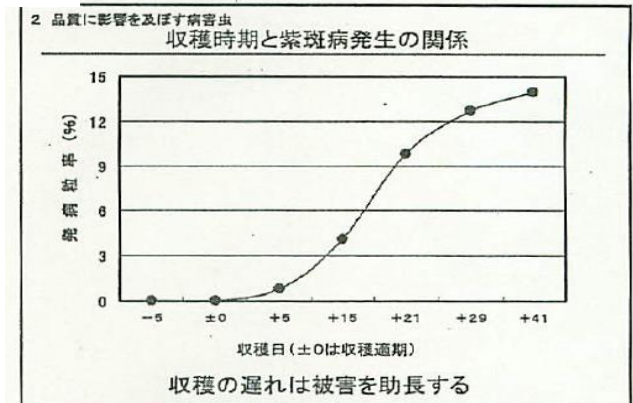


図1 作付年数、品種および茎葉散布の有無による紫斑病の発生状況（平成20年、場内試験）

注）茎葉散布はアブキストロビン2,000倍またはミノクタシオンRベシル酢酸塩1,000倍のいずれかによる200l/10aの1回散布。

図2



収穫の遅れは被害を助長する

マメシクイガ

＜発生予察情報 8/7 宮城県病害虫防除所＞

・発生量は“やや少”。

前年の子実調査の結果、発生量が平年よりやや少なかったことから、越冬量は平年よりやや少ないと推測される。

◆8月下旬～9月上旬（成虫発生盛期）に1回目、その7～10日後に2回目の防除

- ・年1回発生します。成虫が着莢直後の莢に産卵し、その幼虫が子実を食害します。
- ・日長によって成虫が羽化するため、発生時期の年次変動は小さく、スケジュール防除が可能です。
- ・連作4年目以降のほ場では、発生が多くなるため2回防除を行いましょう（図3参照）。

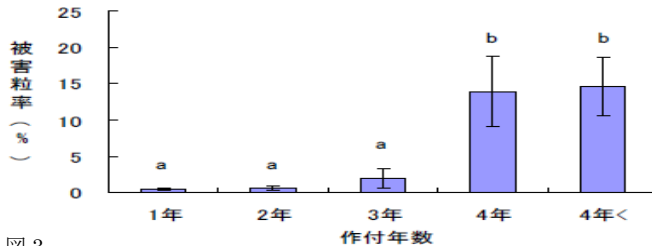


図3 ダイズ作付年数とマメシクイガの被害粒率
同じ添字は、5%レベルで有意な差がないことを示す(Tukey-Kramer法)。
図中の縦棒は、標準誤差を表す。

宮城県「普及に移す技術」第84号より



マメシクイガによる食害粒

フタスジヒメハムシ

＜発生予察情報 8/7 宮城県病害虫防除所＞

・発生量は“やや少”。

巡回調査の結果、寄生頭数は平年よりやや少なかった。

◆8月下旬～9月上旬（第2世代成虫発生盛期）に防除

- ・年間3世代程度発生し、大豆作付1年目から被害が見られます。
- ・子実を直接食害することはありませんが、若い莢の表面を食害し、傷跡から雑菌が侵入して黒斑粒・腐敗粒の発生を招き、品質低下の原因となります。

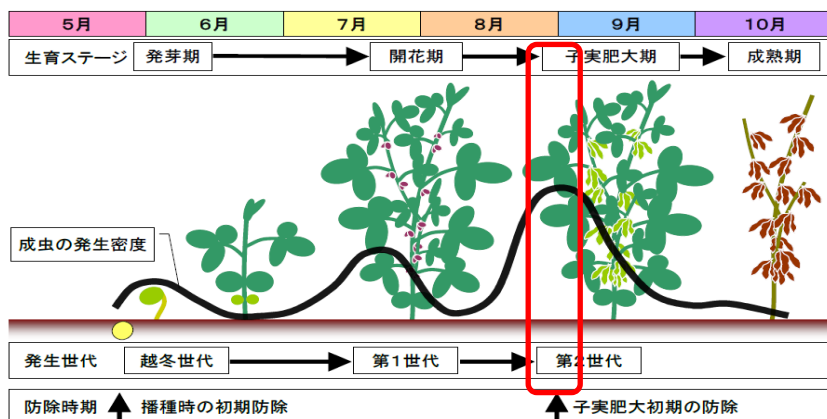


図4 大豆におけるフタスジヒメハムシの発生消長の模式図と防除体



黒斑

ダイズ害虫防除の考え方

作付年数	対象害虫
連作4年目以上のほ場	マメシクイガ フタスジヒメハムシ ※マメシクイガ防除に重点を置く
作付初年目のほ場	フタスジヒメハムシ

吸実性カメムシ類

＜発生予察情報 8/7 宮城県病害虫防除所＞

・発生量は“やや多”。

巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、寄生頭数は平年より多かったこと、高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されていることから推測される。

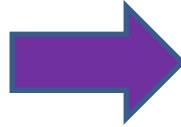
害虫防除体系の例（2回防除）

【1回目】

8月第6半旬

マメシクイガ 発蛾最盛期→成虫対象

フタスジヒメハムシ第2世代成虫発生盛期



【2回目】

9月第2半旬

マメシクイガ 孵化最盛期→幼虫対象

カメムシ類

散布方法	薬剤名	グループ	適用害虫
無人航空機、地上防除	プレバソフロアブル5	ジアミド系	ウツノメイガ、オオバコガ、マメシクイガ、ハスエンヨウ
無人航空機、地上防除	ヨーバルフロアブル	ジアミド系	コガネシジミ類、ウツノメイガ、マメシクイガ、ハスエンヨウ
地上防除	グレーシア乳剤	イソキサリ系	フタスジヒメハムシ、ハダカバエ類、ウツノメイガ、オオバコガ、マメシクイガ、ハスエンヨウ
無人航空機、地上防除	スミチオン乳剤	有機リン系	※アブラムシ類、カメムシ類、マヒメヤマトガ、ダイズヤマトガ、ヨイモジマダラメイガ、ウツノメイガ、マメシクイガ、※マハシヨウ、ダイズヤマトガ
※は地上防除のみ			
地上防除	エルサン乳剤	有機リン系	アブラムシ類、ツメクサガ、カメムシ類、ヨイモジマダラメイガ、マメシクイガ、ハスエンヨウ
地上防除	トレボンMC	ピレスロイド系	カメムシ類、マメシクイガ、ハスエンヨウ
無人航空機	トレボンエアー	ピレスロイド系	ツメクサガ、カメムシ類、マメシクイガ、ハスエンヨウ
無人航空機、地上防除	スタークル液剤 10	ネコチノイド系	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ダイズヤマトガ

※記載した農薬情報は、農林水産消費安全技術センター農薬登録情報(2023年8月8日)現在の内容です。

使用に当たっては最新の登録情報を確認の上、周辺の他作物への農薬飛散等に十分注意してください。

※1回目と2回目は、違うグループから農薬を選定してください。

紫斑病防除体系の例（ミヤギシロメ 1回防除）

9月第2半旬（開花20~30日後）	
散布方法	薬剤名
無人航空機、地上防除	アミスター20フロアブル
無人航空機、地上防除	プランダム乳剤 25
無人航空機、地上防除	ニマイバー水和剤
無人航空機、地上防除	トライフロアブル

※記載した農薬情報は、農林水産消費安全技術センター農薬登録情報(2023年8月8日)現在の内容です。

使用に当たっては最新の登録情報を確認の上、周辺の他作物への農薬飛散等に十分注意してください。

宮城県内で広域的にアミスター20フロアブルに対する感受性低下菌が発生している可能性が考えられることから、前年に紫斑病の多発がみられ、剤の効力低下が確認された場合は、アミスター20フロアブルの使用を中止し、他系統の薬剤に切り替えてください。

宮城県「普及に移す技術」第97号より

農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）